

Luxstella LLC (Infinitia Link Limited) 開発 Strategy 「自動プログラム売買」 System (PAMM・EA システム)

【Luxstella LLC (Infinitia Link Limited) 開発 Strategy (PAMM・EA System) Product コンセプト】
《自動プログラム・システム売買 (CFD 取引)》

目次

ストラテジー名：Luxstella Bright Star Strategy «PAMM・EA System» (Infinitia Link Limited)	2
《5つの特徴》	2
Luxstella Bright Star Strategy «PAMM・EA System» (Infinitia Link Limited) Product ポイント	2
1.Sirius (シリウス) (収益追求型)	3
2.Vega (ベガ) (安定重視型)	3
3.Betelgeuse (ベテルギウス) (バランス型)	3
《伝統的資産運用の問題点と課題》	4
《ヘッジファンドとは》	4
《ストラテジーコンセプト》	4
《ストラテジー・エッセンス》	5
「オルタナティブ投資 (Alternative Investments)」	5
「デリバティブ取引 (Derivatives Trading)」	5
「グローバル・マクロ (Global Macro)」	5
「マーケット・タイミング (Market Timing)」	5
「アルゴリズム・トレード (Algorithm trading)」	5
「マネージド・フューチャー」	5
「行動ファイナンス」	5
※行動ファイナンスとは	5
「ファンダメンタル分析」	6
「テクニカル分析 (チャート分析)」	6
「オーバーレー運用適用」	6

ストラテジー名：Luxstella Bright Star Strategy «PAMM・EA System» (Infinitia Link Limited)

■「フィンテック (IT と金融の融合)」に「伝統的ファイナンス」と「行動ファイナンス」を融合させた運用手法による「ヘッジファンド」(PAMM・EA system)

《5つの特徴》

1. 絶対収益獲得を目指すファンドである
2. PAMM (Percent Allocation Management Module) System に「自動プログラム売買」System (EA: Expert Adviser) を搭載
3. 各投資家 (個人投資家・機関投資家・コーポレートファイナンス・オプション・先物・外国為替) の市場参加者や取引に伴って実際起こっている「アノマリー」とそれに関係すると思われる行動概念から売買ロジックを開発
4. 「フィンテック (IT と金融の融合)」の概念から「PAMM・EA System」(Managed Account) を効果的に活用し、低コストにてヘッジファンドへと昇華
5. 各ストラテジーの「シャープレシオ最大化」を目的とする「パラメータ (期待収益率)」を推計し「最適アロケーション」を構築する「最適ファクター」の選定において AI (学習機能) を搭載し、最適 MPT の構築を実施

※CFD (Contract for Difference) 取引とは、「差金決裁取引」のことです。

※EA は、「Expert Adviser」の略で「自動プログラム売買」System のことです。PAMM とは、「Percent Management Management Module」の略で、「Managed Account」System のことです。

Luxstella Bright Star Strategy «PAMM・EA System» (Infinitia Link Limited) Product ポイント

- ・過去 10 年間以上のバックテスト期間で優位性が確認できているだけでなく、今後の相場における優位性をマクロデータや統計データから説明可能な条件のみをロジックとしている
- ・運用する EA のリターンとリスクを分散化することにより、運用パフォーマンスを安定させるため、エントリー及び決済タイミングの相関関係が低い EA を搭載
- ・個別の EA により、アン・システムティックリスクを実績リターンとして顕在化させ、その期待収益率 [ER] を AI により推計したファクターに基づいて算出し、最適 MPT の構築を実施する (「伝統的資産運用」との融合)

1.Sirius (シリウス) (収益追求型)

Sirius (シリウス) (PAMM・EA System) のポイント (詳細は商品概要ご参照)

■通貨種類/Strategy : 5 通貨/3 Strategy (USD/JPY・GBP/JPY・EUR/JPY・GBP/USD・EUR/USD)

■期待収益率 : 40%~60%

■期待最大ドローダウン範囲 : 5%~20%

■全期間シャープレシオ : 14.59

■5つのEAのポートフォリオ運用 (バックテスト・シミュレーション)

直近10年間のバックテスト結果 (※) : 平均年利 (単利) 41.9% (最大ドローダウン : 5.6%)

※実際の相場環境よりも厳しい条件下で実施

2.Vega (ベガ) (安定重視型)

Vega (ベガ) (PAMM・EA System) のポイント (詳細は商品概要ご参照)

■通貨種類/Strategy : 3 通貨/3 Strategy (USD/JPY・GBP/JPY・EUR/JPY)

■期待収益率 : 25%~40%

■期待最大ドローダウン範囲 : 3%~15%

■全期間シャープレシオ : 12.20

■5つのEAのポートフォリオ運用 (バックテスト・シミュレーション)

直近10年間のバックテスト結果 (※) : 平均年利 (単利) 32.0% (最大ドローダウン : 4.3%)

※実際の相場環境よりも厳しい条件下で実施

3.Betelgeuse (ベテルギウス) (バランス型)

Betelgeuse (ベテルギウス) (PAMM・EA System) のポイント (詳細は商品概要ご参照)

■通貨種類/Strategy : 2 通貨/3 Strategy (USD/JPY・GBP/JPY)

■期待収益率 : 15%~30%

■期待最大ドローダウン範囲 : 1%~10%

■全期間シャープレシオ : 5.98

■5つのEAのポートフォリオ運用 (バックテスト・シミュレーション)

直近10年間のバックテスト結果 (※) : 平均年利 (単利) 23.2% (最大ドローダウン : 4%)

※実際の相場環境よりも厳しい条件下で実施

《伝統的資産運用の問題点と課題》

- 1.MPT(モダン・ポートフォリオ・セオリー)における「伝統的資産運用」は、市場参加者が「リスク回避的」な投資家を前提とし、市場が効率的であると仮定している。(ファンダメンタル分析、テクニカル分析、行動ファイナンス、フレーミング等は織り込まれている前提である)
 - 2.MPTの原則において投資家サイドから見た場合、「機関投資家」のニーズと「個人投資家」のニーズを区別していない。
 - 3.市場は、経済活動や技術革新が過渡期に差し掛かると非効率的となるが、それは、過渡期に限らず日常の経済活動においても常に起こりうるということを織り込んでいない
 - 4.「伝統的資産運用」では、「投資する対象」や「投資戦略」、「個別銘柄の選択」よりも、市場の効率性に則って、市場平均を上回る投資収益率が望ましいとする投資哲学に起因する
- ※ジョージ・ソロス：「市場が効率的だと考える人が増えるほど、市場は効率的ではなくなる」
- ※ウォーレン・バフェット：「もし市場がいつも効率的なら、今頃、私は道端でブリキの缶を前にして座っているだろう」

《ヘッジファンドとは》

ヘッジファンドは、どんな「投資対象」にも投資をし、「伝統的な資産運用者」ならば規制上の問題等から採用できない様な従来とは異なる「投資手法・投資戦略」を駆使するファンドである。

ヘッジファンドは、様々な「投資対象」、「投資戦略」を手掛け、運用者の裁量に基づいた投資戦略が取られる完全自由競争の中、絶対収益を目的として運営されるリミテッド・パートナーである。

ヘッジファンドの主な収入は、HWM（ハイウォーターマーク）を採用したパフォーマンスの20%に及ぶ運用成績をベースとした「成功報酬」（インセンティブ・フィー）（キャリア）

Luxstella LLC（Infinitia Link Limited）開発ヘッジファンド（PAMM・EA System）

《ストラテジー・カテゴリー》

グローバル・マクロ Global macro
マーケット・タイミング Market timing
アルゴリズム・トレード Algorithm trading

《ストラテジーコンセプト》

δ （デルタ）・ α （アルファ）の収益機会を「ストラテジー」と「レバレッジ」のバランスをコントロールすると同時に、リスク・リターンについて「絶対収益値」と「ドローダウン」をコントロールする運用手法である。

- 1.アノマリー戦略(各通貨のアノマリーに基づくロジック運営・開発)
- 2.ブレイクアウト・スキャルピング戦略
- 3.ブレイクアウト・スウィングトレード戦略
- 4.トレンド・フォロー戦略

《ストラテジー・エッセンス》

「オルタナティブ投資 (Alternative Investments)」

債券や株式等の伝統的な運用資産とは異なるリスク・リターン特性を有する資産へ投資し、どのような市場環境においても左右されない絶対収益（下段参照）を追求する。「代替投資」とも訳されている

「デリバティブ取引 (Derivatives Trading)」

基礎となる商品（原資産）の変数の値（市場価値あるいは指標）によって、相対的にその価値が定められるような金融商品。Ex.有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、通貨（為替）先物取引、オプション取引、スワップ取引等

「グローバル・マクロ (Global Macro)」

株価や通貨、又は債券（金利）などに反映される経済環境や金融市場環境を予測し、特定のマーケットへのロングポジションやショートポジションをとる戦略。先物を使用することが多く、レバレッジが高くなりやすい

「マーケット・タイミング (Market Timing)」

様々な市場において、市場価格と原資産の本来価値との価格の歪みを捉え、ギャップを収益に変えていく運用手法。アノマリー、ブレイクアウト、トレンドフォロワー、等で収益機会を獲得。

「アルゴリズム・トレード (Algorithm trading)」

市場トレンドや事象に注目し、価格の歪みやバイアス等を短期のトレーディング中心に収益機会を獲得していく手法。スキャルピング型、スウィング型、デイトレード型等の投資手法を活用。マーケットでは、「モデル系」と呼ばれている

「マネージド・フューチャー」

CTA(Commodity Trading Adviser：商品投資顧問業者)やCPO(Commodity Pool Operator：商品先物投資運用会社)が運用する複数のファンドへ資金を預け、先物取引の売買で収益を上げる戦略

「行動ファイナンス」

「行動ファイナンス」の実証分析によるマーケット・価格の歪みを検証し、「～現象」という「アノマリー」の中でも消去できない「慣習的な価格変動」を捉えたロジックの構築・開発

市場が効率的ではないことを前提としていることから「ファンダメンタル分析」「アノマリー分析」「テクニカル分析」等が市場環境によって変化していくことから複数のストラテジーの複合や組み換えを実施

※行動ファイナンスとは

「行動ファイナンス」は、「効率的市場仮説」を提唱する「伝統的ファイナンス」の代替的・補完的な理論によって成り立っている。

「効率的市場仮説」に反する実証結果により「伝統的ファイナンス」の枠組みでは説明できない現象の「アノマリー」により価格の歪みを発生させる。

「伝統的ファイナンス」では投資家が合理的であると仮定しているが、「行動ファイナンス」では、人間は誤りをおかすこともあるという普通の投資家を仮定している。

「効率的な市場」では、投資家が合理的ならば「価格形成」は、合理化されるが、実際の市場参加者「個人投資家」「機関投資家」「裁定取引業者」それぞれ心理的なバイアスが発生することから「価格形成」も非効率的である。

「ファンダメンタル分析」

ファンダメンタルズとは、「経済の基礎的条件」のことであり、「ファンダメンタルズ分析」はその国の経済データを使用してマーケットを予測する分析方法のことを指します。また広義では、その経済に影響を与える可能性のある要人の発言もファンダメンタルズとして活用されます。日々、発表される経済指標と要人発言の情報収集がファンダメンタルズ分析を行う上で極めて重要となります。

「テクニカル分析（チャート分析）」

テクニカル分析は基本的にチャートを見た上で、価格や値動きのサイクルに注目する分析手法です。過去の値動きを表すチャートを用いるほか、テクニカル指標と組み合わせて分析します。テクニカル指標には移動平均線、ボリンジャーバンド、RSI、MACDなどが例として挙げられます。

「オーバーレー運用適用」

為替レートの変動は、債券や株式に比べて、「経済ファンダメンタルズ」よりも需給や政治的な要因に影響を受け易く、為替レート自体が「外者」（そともの）であるため、投資家が「為替はよく分からない」と理由から外株や外債、ファンドの外貨建て運用を得意とするファンドマネージャーが、必ずしも為替の運用に長けているとは限らない。そこで、外貨建資産の為替部門を原資産から分離して為替運用特化型の運用を実施する。